静脈採血・静脈注射・点滴に伴う合併症

「静脈採血」「静脈注射」「末梢静脈からの点滴」は治療のために必要な医療行為です。これらは基本的に安全な手技であり、合併症頻度は極めて少ない、また軽度なものが多いとされています。しかしごくまれに、以下のような健康障害を生じるとの報告があります。必要性と危険性をご理解の上、お受けいただきますようお願い申し上げます。

■止血困難・皮下血腫

採血部位の不十分な止血操作などが主な原因です。
採血後は5分以上十分な圧迫止血をしていただきますようお願い致します。

※出血しやすい方はお申し出ください。

■アレルギー

穿刺時の消毒薬（アルコール）や、スタッフの手袋（ラテックス）などで、かゆみや発疹などのアレルギー症状が出現することが あります。

※アレルギーのある方は事前にスタッフにお申し出ください。

■神経損傷

穿刺・採血後も手指に痛みが広がる痛みやしびれが生じ、一定時間経過後も持続します。
安全対策を講じて穿刺しても、約1万～10万回に１回の頻度で起こるとされています。
多くは軽度の損傷で ほとんどの場合1週間～３か月以内に改善します。
まれに長期化する場合もあります。

※針を刺した時に強い痛みやしびれが出た場合にはすぐにお申し出ください。

■血管迷走神経反応

神経が興奮，急激に血圧が下がることによって、めまい・気分不快・意識消失を引き起こします。0.1%～1.0%の頻度で起こるとされてています。心理的に緊張、不安が強いと起こりやすいとされ穿刺する前に起こることもあります。

上記のような合併症が起きた場合には、最善の処置を行います（なおその際の医療は通常の保険診療となります）。合併症について分からない事がございましたら、主治医または医療スタッフにお尋ねください。

海老名総合病院・海老名メディカルプラザ　医療安全対策室
2025年５月医療安全対策室作成
2025年５月医療安全管理委員会承認